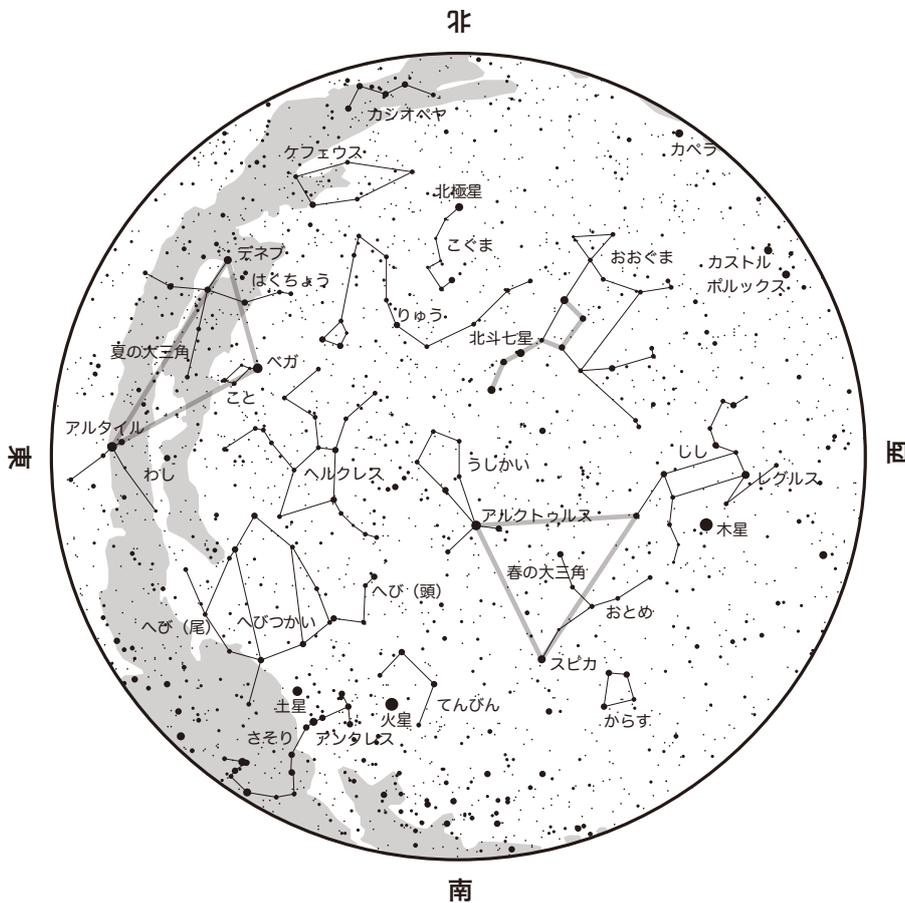


本物の星空を見てね！

★ 星空案内と宇宙の話題

ペーパー版



6/15午後9時頃、7/1午後8時頃の星空（月はかいていません）

姫路科学館は7月14日まで建物の大規模改修工事のため休館中なので、プラネタリウムに代わって、星空案内と宇宙の話題をお届けします。

にじゅうし せっき
二十四節気

6/21 夏至

7/7 小暑

姫路の日没

6/15 19:16

7/1 19:18

月の見え方

● 満月 6/20（一晩中）

● 下弦 6/28（夜中に出）

● 新月 7/4（見えない）

● 上弦 7/12（夜中に没）

星空案内（肉眼編）

夏至をはさんだこの時期は一年で一番日の入りが遅く、午後9時を過ぎないと真っ暗になりません。ようやく暗くなった頃に空を見上げると、空の西半分には春の星、東半分には夏の星が見えています。見つけやすいのは、北西の空の北斗七星、西の空の木星としし座、南西の空高く見える春の大三角でしょう。

南の空には火星が明るく目立ちます。火星は4月下旬から6月末までの間、さそり座からてんびん座に向けて西へ進んでいきましたが、7月以降は東に向きを変え、さそり座の方に戻ります。さそり座のアンタレスや土星を目印にすると動きがわかりやすいでしょう。

東から北東にかけて、夏の大三角も見えるようになりました。大三角の一番上がこと座のベガ、右下がわし座のアルタイル、左下がはくちょう座のデネブです。ところで、7月7日は七夕ですが、七夕の織姫星はベガ、彦星はアルタイルです。2つの星の間を通り、夏の大三角に重なるように天の川が流れます。梅雨の最中で、七夕の夜に星が見えない年も多いですが、雨上がりの澄んだ夜空では、思いのほか星がたくさん見え、明かりが少ない場所では天の川も見えるかもしれません。また、七夕の夜でなくても、七夕の星や天の川は空にあるので、晴れた夜空はお見逃しなく。

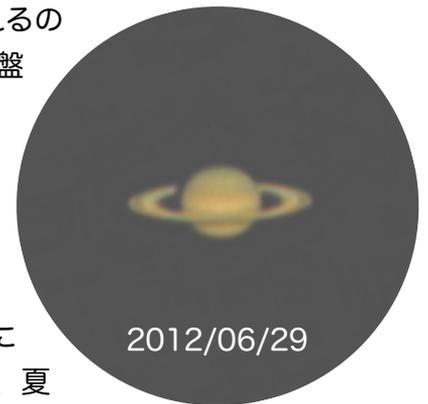
星空案内（双眼鏡・望遠鏡編）

肉眼で見える3つの惑星を望遠鏡で観察できます。特に明るく見えるのが木星と火星ですが、木星は次第に西に低くなり、観察の時期は終盤です。火星は5月31日の最接近以降、望遠鏡で見る姿はどんどん小さくなっていて、梅雨が明けるところには、視直径が最接近時の75%になってしまいます。火星は肉眼では長く観察できますが、望遠鏡で観察したい人はできるだけ早い時期にどうぞ。

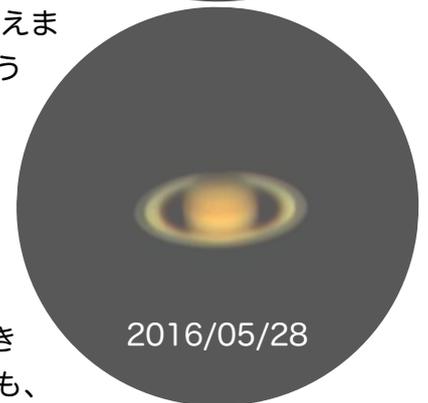
土星は遠いため、火星ほど距離の変化が大きくありません。肉眼で見やすい時期には望遠鏡で環のある姿を楽しめます。今年は夏休みにかけて望遠鏡での観察の好機が続くので、まだ見たことがない人は、夏休みなどに挑戦してください。なお、土星は木星や火星よりも暗く見えますが、これは望遠鏡を通して同じです。小さい望遠鏡で大きく見ようと無理に倍率を高くすると、暗くぼやけた姿しか見えません。望遠鏡の口径をcmで表したときの10～15倍程度、口径6cmなら60～90倍、口径10cmなら100～150倍が惑星を見る適正倍率です。

望遠鏡を持っていない人、小さい望遠鏡はあるけれど、使い方がよくわからない人は、星の子館の天文台に行きましょう。口径90cmの大型望遠鏡で、きれいな土星を観察できます。ただし、口径が大きくなると気流による揺らぎの影響が大きくなるため、口径90cmでも、200倍くらいで見る人が多いです。

この時期は日の入りが遅いため、星の子館の夜8時からの観望会でも星雲や星団などを見るのは難しいですが、土星は真っ暗にならなくても見えますし、たそがれ時は凧の時間帯に重なり、気流が落ちついて細かい様子が観察しやすいことが多いので、ぜひお出かけください。なお、天文台の望遠鏡でも、曇りや雨の日には星は見えないのでご注意ください。



2012/06/29



2016/05/28

七夕

7月7日は七夕です。七夕というと、織姫星と彦星の七夕伝説、そして、短冊に願い事を書いて飾る笹飾りが一般的でしょうか。七夕伝説は、「天の川の両岸に離れている織姫と牽牛が、年に一度だけ会える」というところが共通でその他は、天の川は「かんざしで天を切り裂いた」、「瓜から溢れ出た水」など、各地でいろいろなバリエーションがあります。

ところで、七夕は元々は「しちせき」と読み、五節句の一つに数えられます。節句では飾りやお供えをしますが、七夕の場合は、中国から宮中に伝えられた乞巧奠（きこうでん、きっこうでん）が元になっています。京都の冷泉家^{れいぜいけ}で現代に伝えられているところでは、南の庭に棚を作って五色の糸や布、琴や琵琶^{びわ}などの楽器、梶の葉を浮かべた桶、果物などを供えます。棚に機^{たな}を供える「棚機^{たなばた}」から、七夕をたなばたと読むようになったのでしょう。

大塩周辺では、人形（ひとがた）を飾る風習があります。人形は、着物が貴重だった時代に、きれいな着物をたくさん持ちたいという願いを込めて作ったようです。8月6日の夕方に飾り、7日の朝には片付けられるので、外部の人が目にする機会は少ないですが、科学館では、例年、七夕特別投影に合わせて巨大七夕飾りに人形を飾ってきたので、見たことのある人がおられるかもしれません。

